

## 平成27年度第1回トータルヘルスケアワークショップと フィールドワークを開催しました

平成27年8月26日（水）から28日（金）まで、平成27年度第1回トータルヘルスケアワークショップとフィールドワークを開催しました。

新潟大学、新潟医療福祉大学、新潟薬科大学、それに川崎医科大学から、医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、歯科衛生士、言語聴覚士など、様々な医療職を目指す、総勢17名の学生が参加しました。

1日目は、ワークショップを開催しました。3つの班に別れてのグループ学習です。初めにアイスブレイキングとして、今まで最も心に残った学習をテーマに各自絵を描き、各班内で説明しあった後、発表者に班全員の絵をみんなの前で紹介してもらいました。各自の絵を説明し合い、発表していく中で、お互いに自然に打ち解け合い、後の作業がスムーズに進むようになります。



その後、口腔ケアに関するミニレクチャー「口腔ケアの重要性」と題し、口腔ケアの意味、その重要性などについて黒川亮先生から説明しました。さらに、歯科衛生士の指導の下、実際の手技を学生に体験実習してもらいました。翌日の実際の口腔ケアの現場で行われている手技、使われている道具を扱うことで、理解の手助けとなります。



つぎに「口腔ケアを通して考える超高齢社会の課題」について、KJ法を用いて課題の抽出を行いました。各班とも、口腔ケアを行う担い手不足、口腔ケアの重要性の認識不足、口腔ケアを必要とする患者の増加など、様々な視点から問題点を抽出していました。



午後は、誤嚥性肺炎の予防について、ソーシャルキャピタルについて、ミニレクチャーがありました。その後、翌日のフィールドワークの目標について、一般目標と行動目標をたててもらいました。

2日目は、胎内市の中条愛広苑、新発田市の豊浦病院、阿賀町の県立津川病院・東蒲の里、燕市のデンタルクリニックツチヤ・エバーグリーン、上越市柿崎区のよねやまの里の5地区に分かれて、口腔ケアをテーマにフィールドワークを行いました。各班とも口腔ケアについてのレクチャーを受けたり、嚥下体操と一緒に実演したり、食事介助を間近で見学させて頂いたり、有意義な体験実習を行うことができました。



3日目は、「フィールドワーク体験共有」として、前日のフィールドワークで実際の医療現場で行われていた口腔ケアの様子や、体験実習した内容、またそこからどのようなことを考えたかなどを、プレゼンテーションして、2日目の各班の体験を共有しました。



最後に今回のトータルヘルスケアワークショップとフィールドワークの感想をレポートにまとめ、教員も含めて全員で一言ずつ感想を述べ合いました。この日は、東北公益文科大学地域福祉コースの鎌田准教授が見学にいらっしゃっており、違った目線からのご感想や学生への応援の言葉をいただきました。その後、参加者に修了証が渡され、全日程を終了しました。

今回も多職種を目指す学生が参加し、学生のモチベーションも高く、非常に活気のある密度の濃いワークショップとフィールドワークとなりました。